

ひびこれこうじつ  
「日々是好日」

畑中 泰道 ひろまさ

お通夜やお葬式をセレモニーホールで行うことがずいぶん多くなりました。ホールのスタッフの方にお葬式の日取りを確認しますと、友引の日を避けて日程を調整してみえました。世間では友引の日だと故人が仲間や親せきを道ずれにし、引っ張るからだという理由づけをしています。はたして本当なのでしょうか。

友引や仏滅などの日の良し悪しのことをと六曜ろくようといいます。これは中国に起こった陰陽道おんみょうどうが起源だという説があり、やがて鎌倉時代になって日本に伝わり、当時それによって吉凶を占っていたそうです。それから一時は消えてしまったのですが、明治になるとまた流行り、主に賭け事をする人の間で、勝負の吉凶を占うのに使われたそうです。先勝さきがち・先負さきまけに、勝ち負けという字が入っているのはそのためです。そして、友引は共に引き分ける、仏滅は物がなくなる、というのがもともとの意味でした。それがいつの間にか字を変えて、言葉を勝手に解釈して迷っているのが私たちです。

仏教では「日々是好日ひびこれこうじつ」という言葉があります。そもそも日に良し悪しはなく、どの日もかけがえのない一日ということです。私たち真宗門徒の阿弥陀様をおたのみする生活というのは、そういった世間でいう日の良し悪しに迷う必要がなく、振り回されないということです。

日の良し悪しで物事を決めようとなさる前に、阿弥陀様の声に耳を傾けてみてください。教えの光に照らされて、今まで見えなかった、迷いの中にいる自分の姿がきっと見えてくると思います。